



水無月 同学年でふれあい～二つの宿泊行事を通して～

校長 近藤 章宏

宿泊学習(第一学年)

新緑の季節、5月15日・16日の二日間、1年生は群馬県・国立赤城青少年交流の家にて1泊2日の充実した活動を通して、多くの学びと絆が育まれました。



1日目の午後は広大な山林でのオリエンテーリングを実施。班ごとに地図を読み、協力してチェックポイントを巡る中で、役割分担や意思疎通、時間管理といった力が自然に養われました。

慣れない集団行動の中で互いに声を掛け合う姿は、新入生同士の信頼関係の形成につながったと感じています。

夕食後のキャンドルファイヤーは、厳かな雰囲気のもとで新入生一人一人がこの一年



間のそして中学生としての目標や決意を発表し合う場になりました。暗闇に揺れる灯の前で語り合うことで、普段の教室とは違う真剣さと温かさが生まれ、仲間への理解と連帯感が一層深まりました。二日目の飯盒炊爨では多くの生徒が小学校での林間学校の経験を生かし、落ち着いてカレー作りに取り組むことができました。火の扱いや共同調理を通じて、他者への配慮や責任感が育まれたことは大きな収穫です。入学して約1か月しかない準備期間の中で、生徒たちは着実に中学生になっていました。

修学旅行(第三学年)

3年生は5月26日からの3日間で修学旅行に行き参りました。2泊3日の行程は、1日目の午後を



奈良市内で班別行動、2日目は京都市内で午前・午後とも班別行動、3日目はクラス単位で伏見稲

荷や嵐山方面を見学する内容でした。歴史と自然に触れる学びの場で、生徒たちは事前学習で得た知識をもとに主体的に見学し、互いに情報を共有し合う姿が多く見られました。



班別行動では5～6人という少人数の中で役割分担や時間管理、対応力が求めら

れます。はじめは緊張気味だった班も、班長を中心に協力して行動するうちに会話が弾み、互いの考えを尊重する態度が育ちました。寺社や史跡を巡る中での学びを通して、コミュニケーション力が見られ、仲間との連帯感も深まっていたようです。また、宿舎や移動中の時間を通して学校では見えにくい一面に触れる機会にもなりました。異なる興味や価値観を持つ友人との交流は、互いの違いを認め合う寛容さや協働する力を育む教育効果をもたらします。今回得た経験は、今後の学校生活や自ら決定していく進路選択に生かされることを期待します。学年全体で培った協働力や責任感を、学級活動や行事、家庭での会話につなげてください。



修学旅行や林間学校などの泊を伴う行事は、学習指導要領では「特別活動」という学習に位置付けられています。

そのねらいは校外の豊かな自然や文化に触れる体験を通して、学校における学習活動を充実発展させること。また、校外における集団活動を通して、教師と生徒、生徒相互の人間的な触れ合いを深め、楽しい思い出をつくること。さらに、集団生活を通して、基本的な生活習慣や公衆道徳などについての体験を積み、集団生活の在り方について考え、実践し、互いを思いやり、共に協力し合ったりするなどのよりよい人間関係を形成しようとする態度を育てることが挙げられます。

当たり前のことですが学校は普段は同じ年齢の人同士でクラスや学年で一緒に活動することが圧倒的に多いです。しかし同じ年齢の人たちと、何かを協力してやり遂げたり、ふれあったりすることができるのは学校にいる間だけの貴重な時間です。大人になってからはそのような機会はほぼないでしょう。同じ年齢の仲間と協力して様々な体験ができる「今」を大切にしてほしいと思います。